

中心市街地活性化特別委員会行政視察報告書

期 日	令和5年11月9日（木）
視察先	長崎県 長崎市
出席者	瀧口慎太郎（委員長）、高田昌慶（副委員長）、岩崎一弥、高橋知己、奈良直史、白川美作江、川口仁、渡辺貞雄、井上武
随行者	樫山主査
調査項目	長崎市役所新庁舎について
概要	<p>2022年に完成した新庁舎は、地下1階、地上19階建ての構造となっている。転入などの身近な手続きや福祉に関する相談は1階で完結でき、2階にはキッズスペースや入園手続きなどの子育て関連機能を配置するなど、窓口機能を有する部署や市民利用スペースが低層階に集約されている。</p> <p>同じフロアで乳幼児健診等が受診できることや高層階を生かした市内を一望できる展望ホールを屋上に整備するなどの特徴がある設計となっている。</p> <p>議会フロアでは、議長席後方に170インチの電動巻き上げ式大型スクリーンや傍聴席横に議会中継用モニターが設置され、傍聴者に配慮した設計となっており、また、電子採決などの最新式の設備が導入されている。</p> <p>今後、複合施設整備事業における議場設備の検討に当たり、大いに参考になるものであった。</p>
主な質疑	<p>Q 新庁舎前の広場の利用実績はあるか。 A 市のイベントや献血などの行政目的の利用が主であり、民間の利用実績はほとんどない。</p> <p>Q 庁舎内のセキュリティはどのような設計になっているのか。 A 当初、エレベーターに制限を設けて、セキュリティカードがないと指定の階には行けない仕組みを考えていたが、各フロア上にセキュリティの扉を設置することで、指定のエリアには入室できない設計とした。</p> <p>Q 議会フロアの会議室は、庁内で利用しているか。 A 庁舎の敷地面積が狭いため、会議室が少なく、委員会室や理事者控室が空いているときには使えるようにしている。</p>

中心市街地活性化特別委員会行政視察報告書

期 日	令和5年11月10日（金）
視察先	長崎県 長崎市
出席者	瀧口慎太郎（委員長）、高田昌慶（副委員長）、岩崎一弥、高橋知己、奈良直史、白川美作江、川口仁、渡辺貞雄、井上武
随行者	樫山主査
調査項目	長崎駅周辺再整備事業について
概要	<p>長崎駅周辺では、新幹線開業に併せて国、県やJR九州等の民間企業と連携した大規模な再開発を実施しており、令和10年度の完成に向けて事業が進められている。まちづくりの特徴としては、景観の専門家や行政で組織した会議体にて駅周辺のデザイン調整を行い、駅広場から駅舎の新幹線が見える仕掛けなど、まちの景観に配慮した整備が行われている。</p> <p>また、障がい者団体と調整し、昇降機の整備や民間ビルのエレベーターを一般開放するなど、様々な意見を踏まえたバリアフリー化が実施されている。</p> <p>歴史的な文化や伝統に培われた長崎市の特徴を生かした魅力の顕在化やにぎわいの再生を図るための整備事業を官民一体となって進められている。</p> <p>今後の本厚木駅北口地区市街地再開発事業における中心市街地のまちづくりとして、大いに参考になるものであった。</p>
主な質疑	<p>Q 再開発事業には、様々な組織体関わっているが、誰が事業を取りまとめているのか。</p> <p>A 新幹線開通を契機に再開発が進んでおり、再開発当初の窓口であった長崎県が主体となり現在も事業を推進している。</p> <p>Q ここまで一体的に事業が進んできた要因は。</p> <p>A これまで鉄道としてしか利用されてこなかった土地が区画整理に伴い、利用価値が上がったことで、駅周辺に投資を考えている民間企業のモチベーションアップにつながっていると感じている。</p> <p>Q どこまでデザイン調整の効力があるのか。</p> <p>A ホテルやマンション規模の建設は、設計の段階から壁面の色などについて景観に配慮してほしい旨のお願いをしている。強制力はないが、多くの方に受け入れていただいている。</p>